

避難所における感染症対策

避難所に避難する場合は、新型コロナウイルス感染症対策に必要な物を可能な限り持参し、「新しい生活様式」に基づいた避難生活を送りましょう。

持参するもの

避難するときは、感染症予防に必要なものを持参しましょう。マスクは手ぬぐいやハンカチ、消毒液はウエットティッシュでも代用できます。



避難所での過ごし方

新型コロナウイルス感染症対策のため、以下のことに取り組みましょう。



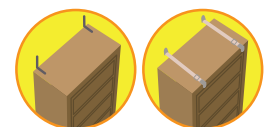
「災害」と「感染」

2つのリスクから命を守るためにできること



大規模災害から命を守る3つの行動

家の耐震化と家具の転倒・落下防止を！



- ☑ L型金具などで家具と壁とを固定する
- ☑ 家具のレイアウトに配慮する
- ☑ 室内のガラスにも安全対策を行う

危険を感じたら安全な場所へ早めの避難を！



- ☑ 家族の役割分担を決めておく
- ☑ 避難経路・避難場所を確認しておく
- ☑ 地域の防災訓練に参加する

災害後1週間は備蓄で乗り切る準備を！



- ☑ 最低3日分、できれば1週間分の食料・水を備蓄する
- ☑ 非常持出品はリュックサックに入れておく
- ☑ 電気やガスが使えない場合に備える

宮崎県危機管理局危機管理課

〒880-8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号（宮崎県庁防災庁舎3階）
TEL：0985-26-7066 FAX：0985-26-7304
E-mail：kiki-kikikanri@pref.miyazaki.lg.jp

宮崎県防災・防犯情報メールサービス実施中！

気象情報や災害時の防災情報、防犯情報、家畜疾病情報などを無料配信します。
bousai.miyazaki-pref@raidan2.ktaiwork.jp宛てに空メールを送信してください。
（登録無料・パケット通信料のみ自己負担）

登録方法

宮崎県防災メール

検索



新型コロナウイルス感染症を考慮した

命を守る避難行動

知っておくべき避難のポイント



日本のひなた宮崎県

宮崎県

『災害』と『感染』。2つのリスクから命を守るためにできること

災害が差し迫った時、あなたはいつ、どこに避難しますか？

新型コロナウイルスの感染リスクのある今だからこそ、「自らの命は自らが守る」＝「自助」の意識を持ち、今のうちに避難の方法や備えについて確認しておきましょう！



あなたがとるべき避難行動は？ 避難行動判定フロー

まず、ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

国土交通省のHP「ハザードマップポータルサイト」または市町村から配布されたハザードマップで確認しましょう。



ハザードマップポータルサイト 検索



家がある場所に色が塗られていますか？

はい

いいえ

原則として**在宅避難**をしましょう。

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市町村からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

災害の危険があるので**原則として自宅以外に避難**が必要です

例外

浸水の危険があっても、次の3つの確認ができれば**在宅避難**も可能です。

- ①洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である
- ②浸水する深さよりも高いところにいる
- ③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある

土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は**自宅に留まり安全確保**することも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

はい

いいえ

警戒レベル3が出たら**避難**

市町村が指定している指定緊急避難場所、親戚や知人宅など、より安全な場所に避難しましょう

警戒レベル3

高齢者や乳幼児など避難に時間を要する人は

避難



警戒レベル4が出たら**避難**

市町村が指定している指定緊急避難場所、親戚や知人宅など、より安全な場所に避難しましょう

警戒レベル4

全員避難

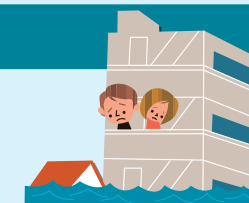


！ 警戒レベルを理解して風水害に備えましょう！

適切な避難行動のポイント

POINT 01

避難とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人は、避難所に行く必要はありません。



POINT 02

避難先は小中学校などの避難所だけではありません。安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。



さまざまな選択肢の中から最適な行動を選択することが大切です。いのちを守るための避難。自分にとってどこが安全な場所か、あらかじめ考えておきましょう。

在宅避難

自宅建物に危険がなく、生活できる状況であれば、在宅避難をしましょう。



事前に住宅の耐震化を行い食料や水など必要な物を日頃から備えておきましょう

親戚・知人宅へ避難

日頃からよく相談して、緊急時に身を寄せられる親戚・知人宅等、安全な避難先を確保しておきましょう。



事前に避難先の安全を確認し避難生活に必要なものは自分で持参しましょう

車中避難

安全な場所に止められるなら一時的に過ごすことも考えてみてください。



車中泊避難の特徴を理解し換気や適度な運動など適切な対応をとりましょう

不安があれば、ためらわず避難所へ！

避難所までの経路を確認しておきましょう。

避難所には多くの人が集まる可能性がありますので、避難所では感染症防止対策にご協力ください。



雨が降りはじめたら警戒レベルを確認！

台風などの風水害や土砂災害など、ある程度の予測が可能な災害については早めの避難行動が大切です。

たとえ空振りに終わったとしても「何もなくよかった」と考え、命を守るためには早めの避難を心がけてください。



警戒レベル	行動を促す情報	住民がとるべき行動
警戒レベル5	災害発生情報【市町村が発令】 大雨特別警報【気象庁が発表】	命を守る最善の行動を！
警戒レベル4	避難指示(緊急)【市町村が発令】 避難勧告【市町村が発令】 土砂災害警戒情報【気象庁が発表】	危険な場所から 全員避難
警戒レベル3	避難準備・高齢者等避難開始【市町村が発令】 大雨・洪水警報【気象庁が発表】	危険な場所から 高齢者などは避難
警戒レベル2	大雨・洪水注意報【気象庁が発表】	ハザードマップ等で避難行動を確認
警戒レベル1	早期注意情報【気象庁が発表】	災害への心構えを高める

市町村長は、警戒レベル相当情報（河川や雨の情報）のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に警戒レベル（避難情報）の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。